

科目名	実習・演習 1							年度	2026
英語科目名	Training and exercises 1							学期	前期
学科・学年	音響芸術科 1年次	必/選	必	時間数	180	単位数	6	種別※	実習
担当教員	鎌田裕明・伊藤浩二・清水昂伯・三好敏之・宮本裕幸		教員の実務経験		有	実務経験の職種		エンジニア・クリエイター・ラジオディレクター	
【科目の目的】 各種スタジオ機器について、その役割と操作方法について理解する。									
【科目の概要】 スタジオシステム全般を学び、音響機器の基本操作を学ぶ。初期段階ではポータブルミキサーを使いながらミキサー卓の音声信号（電気信号）の流れを理解する。入力された音声信号が増幅、分流、減衰などを行いながら出力されている事を把握する。そして各種スタジオ機器についてもその役割と操作方法について理解する。特にマイクロフォンはダイナミック、コンデンサーともに現場で多用されている物の特徴と名称も取り扱いと共に覚えることを目標とする。									
【到達目標】 A. ミキサー卓の音声信号（電気信号）の流れを理解する。 B. スタジオ機器について役割と操作方法について理解する。 C. マイクロフォンの特徴と名称を取り扱いと共に覚える。									
【授業の注意点】 この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう					レベル1 要努力	
到達目標 A	ミキサーを理解し、信号の流れを説明できる		ミキサーを理解し、信号の流れを把握できる					ミキサーについて知れたが、信号の流れを理解できない	
到達目標 B	スタジオ機器について役割と操作を説明できる		機器の役割を理解することができる					スタジオ機器について知ることができる	
到達目標 C	マイクロフォンの名称と特徴を説明できる		マイクロフォンの特徴を把握できる					マイクロフォンについて知ることができる	
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 音響映像設備マニュアル（2023年改訂版）・実習ハンドブック									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 ルーブリックに基づく評価を行う。評価方法は主にグレード試験と提出物で行う。また補足的にレポート評価を行う場合もある。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		実習・演習 1			年度	2026
英語表記		Training and exercises 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	スタジオ概要	スタジオの構造と各機器の役割を理解する	1 スタジオについて	スタジオの概要について理解する	3	
			2 機器の役割について	各機器の役割について理解する		
			3 電源の入れ方について	スタジオ機器の正しい電源の入れ方について理解する		
2	ケーブル制作	ケーブルの構造を理解しつつ、制作できるようになる	1 半田ごてについて	半田ごての扱い方を理解する	3	
			2 シールドについて	ケーブルのシールドについて理解する		
			3 ケーブル制作	半田ごて等を使用してケーブルを制作できるようになる		
3	ケーブル巻き	ケーブルの取り扱い方について理解する	1 ケーブル	ケーブルについて理解する	3	
			2 コネクタ	コネクタについて理解する		
			3 ケーブル巻き	正しくケーブルを巻けるようになる		
4	マイクロフォンについて	マイクロフォンについて理解する	1 種類について	マイクロフォンの種類について理解する	3	
			2 扱い方について	正しいマイクロフォンの扱い方を理解する		
			3 電源について	正しい電源の入れ方について理解する		
5	スタジオの立ち上げ方	スタジオの立ち上げ方法を理解する	1 スタジオ概要復習	スタジオについて復習をする	3	
			2 機器確認	スタジオに設置された機器を確認できる		
			3 基本のセットアップ	マイクやその他機器のセットアップができるようになる		
6	スタジオ機器の基本操作について	パッチングができるようになる	1 スタジオ機器について	スタジオの周辺機器について理解する	3	
			2 基本操作について	周辺機器の基本操作を理解する		
			3 パッチについて	パッチ接続ができるようになる		
7	レコーダーの扱いについて	外録機材について理解する	1 レコーダーについて	レコーダーの基本について理解する	3	
			2 保存方法について	録音したデータの取り扱い方について理解する		
			3 レコーディング	実際にレコーダーを使用して録音ができるようになる		
8	外録実習	レコーダーで外録を行う	1 外録について	外録を行う際の注意などを確認する	3	
			2 記憶媒体について	基本的な記憶媒体の扱い方を理解する		
			3 外録実践	レコーダーとマイクを適切に取り扱うことができるようになる		
9	マイクロフォン実習1	基本的なマイクロフォンについて理解する	1 マイクについて復習	マイクについて復習をする	3	
			2 基本的な種類について	基本的なマイクの種類について知る		
			3 マイクの特徴	マイクの種類を言い当てることができるようになる		
10	スタジオ演習	スタジオを自分でセットアップできるようになる	1 機材確認	必要な機材の確認を行えるようになる	3	
			2 電源周り確認	電源を入れる前に危険がないかを確認できる		
			3 セットアップ	スタジオをセットアップできるようになる		
11	マイクロフォン実習2	マイクロフォンの機能を理解する	1 取り扱い方について	正しい取り扱い方について理解する	3	
			2 マイクの構造	マイクの構造について理解する		
			3 機能について	マイクの機能を理解する		
12	コンソールについて	コンソールについて理解する	1 ミキシングについて	コンソールの概要を理解する	3	
			2 コンソールについて	コンソールについて理解する		
			3 立ち上げ	ミキサーへマイクなどの接続、立ち上げができるようになる		
13	ケーブルの取り扱いについて	ケーブルの扱い方の応用を理解する	1 ケーブル巻き復習	ケーブル巻きについて復習する	3	
			2 逆相巻きについて	逆相巻きについて知る		
			3 実習	素早く綺麗にケーブルを巻くことができるようになる		
14	マイクロフォンまとめ	マイクロフォンの扱い方の応用を理解する	1 構造について	マイクロフォンの構造について理解する	3	
			2 種類について	マイクロフォンの種類について理解する		
			3 扱いと確認	マイクロフォンの扱い方と確認ができるようになる		
15	ミキシングコンソール実習	簡単なPAができるようになる	1 ミキシング応用	ミキシングの応用を知る	3	
			2 コンソール応用	コンソールの応用を知る		
			3ハウリングについて	ハウリングの仕組みを理解する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等